

平成 30 年第 4 回大崎市議会定例会一般質問発言通告書

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
1	15	加藤善市	1 TPP対策について (1) 農産物対策について (2) 入札制度の対策について (3) その他国内法改正による影響について 2 種子法改正について (1) 古川農業試験場の市としての活用の仕方について (2) 食の安全教育について 3 学校給食について (1) 大崎市の学校給食の栄養状況について (2) センター構想の進捗状況について 4 人事の考え方について (1) 課の枠を超えた再任用制度の活用について
2	3	鹿野良太	1 スマート自治体転換について (1) 本市のスマート自治体転換へ向けての考えと取り組みについて伺う (2) 人口減少社会において暮らしの維持についてどのように考えるか、伺う 2 文化・芸術・スポーツ振興の取り組みについて (1) 文化、芸術、スポーツと自治体（大崎市）のかわり方についてどのように考えるか、伺う (2) これまでの文化・芸術振興政策全体の振り返りと今後の展望について伺う (3) これまでのスポーツ振興政策全体の振り返りと今後の展望について伺う
3	6	佐藤仁一郎	1 下水道事業等の地方公営企業法の適用への取り組み状況について (1) 総務大臣通知により、平成 31 年度までの集中取組期間内の適用を求めている。本市の取り組み状況と方向性を伺う (2) 地方公営企業法の適用による期待される効果を伺う (3) 水道部は既に法の適用を受けているが、下水道課の下水道事業、農業集落排水事業、浄化槽事業も移行するのか、伺う (4) 同法適用に向け、必要な事務的環境整備を伺う 2 医療的ケア児の支援策について (1) 事業の状況、推移について伺う (2) 施設の受け入れ状況や待機者の状況について伺う (3) 重症心身障害児について施設と医療関係機関との連携状況を伺う (4) 利用者や職員が安心できるための施設の充実（建てかえ）の方向性について伺う 3 児童虐待防止と関係機関との連携について (1) 本市における虐待と認定された件数の推移 (2) 家族の再統合、再生に向けた取り組み状況を伺う (3) 安全確認状況と対応について伺う

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
4	28	佐藤 勝	<p>(4) 関係機関間の連携状況と、実践的な研修を行っているか</p> <p>4 「子育て世代包括支援センター」設置について</p> <p>(1) 妊娠から子育て、親の不安、課題は多岐にわたる。情報が得られるワンストップ拠点の必要性について伺う</p> <p>5 総合健診における前立腺がん検査を70歳以上も実施すべき</p> <p>(1) 前立腺がん発生の平均年齢が70代とされている。対象外の理由を伺う</p> <p>6 鳥獣被害対策の拡充を図るべき</p> <p>(1) 本市における有害鳥獣による被害の現状を伺う</p> <p>(2) イノシシ捕獲の有効策と処分方法について伺う</p> <p>1 議会報告会から見える市政への警鐘(Ⅱ)</p> <p>(1) 9月議会に続くパートⅡとし、4期目の伊藤市政の戒めとして発言させていただく。それが軽傷(警鐘)で終わることの答弁を求めるものである。</p> <p>それは舗装打ち直しの事業である。議会報告会で市民要望の最も高い舗装修繕は、打ち直しの必要延長は約240キロメートルに及ぶというが、ここ3年間のオーバーレイの実績は、27年度11.5キロメートル、28年度8.9キロメートル、29年度は6.1キロメートル、3年間の合計延長は26.5キロメートルであった。市道舗装の修繕で、路面の損傷、劣化が著しい場所は残り213.5キロメートルで、計算上、あと25年かかることになる。これからもふえていくので、追いかけていけない。それなのに、事業費も3.2億、2.8億、2.2億円と年々減少し、実施率は5%、4%、3%と、これが現実である。大型のプロジェクト事業ばかりが目立ち、「この5年で古川の市街地中心部はかなり変わります」と話しているが、「集落の市道の舗装修繕はなかなか難しく」と明確に発言すべきと思う。「国と県の政策の及ばないところに明かりを灯すのが地方自治の原点」、これを忘れてはいないだろうか、市長。本年度は2%台になるのか、また事業費は幾ら予定しているか、伺う。これでは農道に格下げしたほうがまだましであるとか、執行部は幹線道路ばかりを通っているのか、知っていても市道のクラックの状態にほっかむりかと、そう話している市民も多くいる。答弁は、9月議会でも「今後は交付税の逡減化といった歳入面の課題、歳出面では庁舎の建設、市街地の再開発事業といった大規模な事業が控えている中で…」という決まり文句が最初に出る言葉。新規の幹線道路は目いっぱい予算どりをするが、修繕工事は後回し。一体、行政改革の「仕事のやり方を変える」という実践はどこに表れ、どこで実証され、どう毎年検証しているのか。あるいは、これでよしとしているのか、取り組みを伺う</p> <p>(2) 市道整備や維持補修に29年度は決算ベースで31億円を計上したが、維持補修には2.2億円と余りにも少な</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>いために市道はパッチワーク状態で、特に農村部ではひどくなる一方で、一刻も早い時期に打ち直さないと市民と多くの区長さんたちは道路行政に不信感があり、何を頼んでも「予算がない」と言われ、「協働のまちづくりの信頼関係を築いていくことは無理」という意見が多いことに、どう対応するのか。市は本当にカネがないのかと市民から聞かれるが、私からもただしたい。舗装修繕に毎年2～3億円の決まりがあるのか、理由を伺う。また、個別施設計画の策定はどう進んでいるのかも伺う</p> <p>(3) 市道整備や維持補修について、これまでの答弁では「市政全般の中で検討する」としているが、合併以来ずっとこれに終始している慣行の言い回しであり、担当課は市民の要請に応えることができず、四苦八苦している状況なので、我々も要望するにも気が引ける。もうこんなことは終わりにすべきである。見ている担当はそれらの来客の対応で仕事にならないようであるし、スタッフが少な過ぎるのか、はたまた財政の締めつけか。調査はしてもらえが、修繕工事の予算がとれない。五、六年たってもそのまま、途中経過の報告もなし。あとは忘れられるのみである。決算審査の問題点にもあるように、近年パトロールや要望による損傷箇所の発生件数が著しく増加し、一刻も早い舗装修繕が市民から求められているとしているが、それが事務事業評価において今後の方向性は「現状維持」とはどうか、理解できない。「拡大」とすべきである。農村部の納税額は少ないかもしれないが、現在の市の礎をつくったのは地方であり、何代も前から農を生業にした民の力だと、昔からの家柄に育った市長は篤と知っているはずである。また、市道の延長は交付税の算入基礎にもなることは職員も承知で、なぜ減額するのか、その理由を知りたい。市民が納得できる答弁を求めるものである</p> <p>(4) 車両の大型化や凍上、劣化、振動という災害でもあり、一般的な災害と同じように捉えるべきと思う。そして、復旧と防災の観点から早急に整備することが必要である。つまり、これまでの発想を変えて、来年度は積極的な予算措置をしなければ政治災害と言わざるを得ない。維持補修への認識と、来年度の予算措置は大幅な増額、市民に安心感が広がる予算編成をすべきと考える。もうこれが限界の域に達している。</p> <p>(5) 高齢者が安全・安心に移動できる市道舗装修繕の実施率を思い切って、来年度から3カ年で50%（約120キロメートル）に引き上げることである。重点施策として「舗装修繕計画3カ年キャンペーン」と銘打ち、3年間でまず半分（120キロメートル）を実施する。その事業費は37億1,280万円と算出する。伊藤市長、どうでしょうか。財源の手だてと確保、そして専門のス</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
5	22	山田和明	<p>トップが必要なのは当然で、私案は2回目の質問で数字に基づいて提案する。執行部にやる気があったなら聞かせていただく。案がないのなら、私の政策提案を聞いてほしい。いつもこれに苦勞する区長さんたちは固唾を飲んでこれを聞いていると思う。市長の本気度を伺う</p> <p>(6) 議会報告会での「若手、中堅職員の参加のないことは協働のまちづくりへの警鐘であります」という質問に「若手の職員が参加しやすい環境づくりに努めます」という回答。また、舗装の修繕には「市政全般の中で検討する」等々、これが9月議会の私への答弁であった。抽象論にすぎず、逃げの答えである。答弁書の作成は一般論でとし、何だかわからないようにつくるよう指示をしているのか。言葉尻を捉えるつもりではないが、これでは議会で一般質問を行うことの意味がない。丁々発止できるような答弁をすべきである。私どもも質を高める努力をするので、人材育成基本方針に沿った「目指すべき職員像」の具体策を明確にし、執行部にとっての上手な答弁ではなく、市民に向かって誠実に正直に答えるという意識に変えるよう求めるが、いかがか伺う。そして、予算要求の一律10%の減額を各課に指示しつつ、9月議会の答弁で、舗装修繕も「市政全般の中で検討する」こととしたが、結論はどのようになったかを聞かせていただきたい。あるいは、これも10%減額か、市長の所見を伺う</p> <p>1 鹿島台地域を活性化するための施策展開について</p> <p>(1) 鹿島台地域は、ここ10年前から人口減少にあるが、ここ近年、駅東地区において区画整理事業が進み、住宅地の開発で新築着工がなされ、新住民の皆さんがふえている。鹿島台駅周辺では、鹿島台駅舎、東西自由通路、駅前広場等が整備されたことで都市基盤ができてきた。大崎市では、少子高齢化、人口減少社会の中にあつて、将来にわたる医療、福祉、子育て支援、商業等を身近なところで生活の維持が図られるよう、「大崎市立地適正化計画」の策定に取り組んでいる。</p> <p>そこで、引き続き鹿島台地域を活性化するため、政策展開として「大崎市鹿島台版立地適正化計画」を推進していかなければならない。そのため、次の項目について市長の所信を伺う。</p> <p>ア 鹿島台地域の用途地域指定の推進状況について</p> <p>イ 宮城県道149号鹿島台停車場線、延長83.5メートルの整備について</p> <p>ウ 鹿島台駅前周辺事業の継続事業について</p> <p>エ 旧鹿島台第二小学校跡地の利活用検討について</p> <p>2 地域で抱える道路などインフラ整備の予算確保について</p> <p>(1) 建設課では総合支所ごとの道路維持補修工事費を予算</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
6	7	佐藤仁一	<p>配分しているが、ここ近年、予算を減額計上したことで各総合支所では道路維持補修など縮小せざるを得ないことから、事業が先送りになり、身近なところで影響が出ている。市民生活に密着した極めて重要な予算のため、減額されたことで大変困惑している。</p> <p>そのような中、総合支所の地域振興課担当職員は、行政区長初め、住民とのかかわりの中で地域要望を把握しており、地区ごとの現状を周知している。</p> <p>それらの意見集約を建設課及び財政課と協議する機会を定期的に設け、そこで地域ごとの実情をお互い認識した上で、問題を解決するために合意形成し、予算確保をすべきであるが、市長の所見を伺う</p> <p>3 松山駅前住宅集会所の建てかえ整備方針について</p> <p>(1) 松山駅前住宅集会所は、松山駅前住宅1号棟から5号棟までの住民の皆さんを中心にこれまで使用されてきたが、既に45年以上も経過し、老朽化が甚だしい状況である。そこで、早急な取り組みとして松山駅前住宅集会所の建てかえ整備方針を立てるべき時期と考えるが、市長の所見を伺う</p> <p>4 悪臭対策について</p> <p>(1) 鹿島台地域山船越地区の養鶏場は、国からの助成金で養鶏施設を新たにし、操業しているが、開設以来、鶏ふん処理をする段階で悪臭がすごく、その悪臭が身近なところで漂っている状況である。住民には、そのにおいて体調を崩している方もおり、生活に悪影響を及ぼしている。特に、出町行政区長沢地区、念仏山地区、鴻ノ巣地区はもちろん、本地行政区、大沢行政区でも大変な悪臭のため、我慢できない状況である。日によっては、遙か遠く、姥ヶ沢、東平渡行政区までもにおいが漂ってくる。</p> <p>そこで、悪臭対策について、大崎市としてどのような行政指導の取り組みをしているのか、所見を伺う。あわせて、養鶏場として脱臭装置の設備を調えることで悪臭対策を講じていくとの説明だが、その対策を講じて解決できるのか、伺う。また、それらに関して地域住民への説明会を設けているのか、所見を伺う</p> <p>1 病院事業の病病連携と診診連携の強化を問う</p> <p>(1) かかりつけ医システムへの誘導と連携への課題と実績推移を伺う</p> <p>(2) 本院の高度医療診療の恩恵が分院診療に生かされている連携策及び人的な交流面での充実を伺う</p> <p>(3) 岩出山分院のリハビリセンター完成に伴う整形外科診療の充実を伺う</p> <p>2 学校施設への再生エネルギー導入による教育的効果と課題を問う</p> <p>(1) エアコン設備導入後に係る光熱水費などの維持管理経費への交付税措置などの財政支援の見通しを伺う</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
7	1	早坂 憂	<ul style="list-style-type: none"> (2) 設備導入後に係る光熱水費などの維持管理経費のシュミレーションと再生エネルギー導入の検討策を伺う (3) 給食の環境米やスマートエネルギーなどに教育的関心が高まっている現在、再生エネルギー導入の教育的効果と課題を伺う <p>3 伝統工芸、伝統文化の継承と大崎市の定義を問う</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 大崎市における伝統工芸、伝統文化（芸能、料理）の定義を伺う (2) 伝統工芸や伝統文化継承のためのハード面、ソフト面での施策推移と実績を伺う (3) 鳴子漆器やこのたびのG I 登録（地理的表示保護制度）された岩出山、凍り豆腐などの実態と今後の施策を伺う <p>1 大崎市産のお米のPR方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 大崎市産のお米のPR方法について (2) 新米フェアの反応、効果について (3) ささ王決定戦のその後について (4) 食のイベントの開催について (5) 市民農園のニーズや現状について <p>2 大崎市の国際交流のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 大崎市内の国際交流の現状について (2) 今後の国際交流のあり方について、市としてどのように考えるか (3) 国際的な友好・姉妹都市について (4) インバウンドを見据えた世界農業遺産やグリーンツーリズムに関連したPRについて
8	20	相澤孝弘	<p>1 プレミアム商品券発行事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) これまでの事業結果の検証と、今後発行する際には公平に多くの世帯に行き渡るために発行冊数をふやす等の検討をすべきである <p>2 道路整備計画と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 都市計画道路、稲葉小泉線の進捗状況と関係住民の要望について (2) 志田踏切改良に向けた協議の進捗状況について (3) 東浦留沼線の道路改良の進捗状況について <p>3 塚目駅再整備計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 再整備の協議の進捗状況について (2) どの時期に整備構想（例えば有備館駅のような）を明らかにするのか <p>4 渋井川改修事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 下流部西荒井地区の整備状況と今後の見通しについて (2) 中流部渋井地区の整備状況と今後の見通しについて (3) 政府が予定している国土強靱化計画との関連について <p>5 コミュニティーセンター整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 古川中里地区より要望されている施設整備計画の進捗について

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
9	11	中鉢和三郎	<p>1 宮城県が検討中の宿泊税について</p> <p>(1) 報道によれば、宮城県は6月に宿泊税の導入を検討する会議の設置条例を制定し、10月から検討を進めているとのことである。</p> <p>現在、宿泊税は、東京都、大阪府、京都市、金沢市で導入済みとのことだが、いずれも有名な観光地や国際都市である。</p> <p>一方、宮城県は、東日本大震災の影響もあり、観光客の入り込み数は拡大基調とは言えない。つまり、この時点での宿泊税の導入は、買い手市場で値上げを行うことと等しく、値上げができなければ、結果的には、実質値下げして宿泊税分を宿が負担せざるを得ないことは容易に想像できる。</p> <p>また、法定外目的税として徴収した税をどのように使うかについては、目的税全般における問題と同様に、一般財源に組み込まれることから不透明であり、納税者及び特別徴収義務者の理解が得にくいものである。</p> <p>以上のような問題点を抱える宿泊税を宮城県が導入検討していることについて市長の所見を伺う</p> <p>2 訪日外国人受け入れ（インバウンド）対策について</p> <p>(1) 政府は、訪日外国人旅行者数を2020年に4,000万人、2030年に6,000万人とすることを目指すとしている。実際、昨年2017年は、2,869万人で、前年比プラス19.3%と依然高水準で伸びている。今年は、9月の台風21号と北海道胆振東部地震などの影響で一時的な減少もあったが、10月には前年同月比プラス1.8%と増加に転じ、このまま順調に推移すれば、年間で3,000万人を突破する見通しである。</p> <p>急激な増加に対し、問題も顕在化してきている。観光庁が行ったアンケートからは次のような問題が明らかになっている。</p> <p>①施設等のスタッフとのコミュニケーションがとれない、②無料公衆無線LAN（無料WiFi）環境、③多言語表示の少なさ、わかりにくさ（観光案内板、地図等）、④公共交通の利用、⑤両替、⑥クレジットカード等のキャッシュレス決済。</p> <p>こうした問題は、市内においても深刻である。主に受け入れを担う観光事業者の自助努力だけでは、対応が難しい問題である。政府主導での急激な訪日外国人受け入れの拡大という経緯からすれば、早急に公的支援をすべきと考えるが、それぞれについて具体策を伺う</p> <p>3 改めてイノシシ被害対策について</p> <p>(1) 第2回定例会に続き、イノシシ対策について伺う。</p> <p>さまざまな施策を講じていただいていることは一定</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>の評価をするものである。しかし、目撃情報、被害情報等対策の効果がうかがえる話は聞こえてこない。全くと言っていいほど対策の効果が見えないのが実情である。来期に向け、結果を出せる対策をしっかりと考え、取り組むべきである。そこで、以下について伺う</p> <p>ア 以前、生息数の正確な把握について関係機関に働きかけると答弁しているが、把握はされたのか</p> <p>イ 実施隊の増員を図ることが喫緊の課題だが、どのような施策を実施しているか。また、来期に向け新たな施策としてどのような取り組みを考えているか</p> <p>ウ ボランティアにのみ頼るのではなく、市の職員も狩猟免許等を取得し、従事すべきではないか</p> <p>エ 実施隊募集のPR広告等は全く目にしないが、どのような形で行われているのか。また、男女問わず働きかけが必要と考えるが、女性への働きかけは十分か</p> <p>オ 以前、専門部署の設置と対策に資する政策条例制定を提言していたが、検討状況を伺う</p> <p>カ 実施隊等の捕獲に携わる方への技術研修会の実施状況を伺う</p> <p>キ 以前、県の地域ぐるみの被害対策モデル事業を取り入れるとの答弁があったが、実施状況はどうか</p> <p>ク 以前、地域ぐるみの環境整備を進め、被害地域の皆様と一丸となり、対策ができるような体制構築を実施すると答弁しているが、具体の取り組みについて伺う</p> <p>ケ 以前、箱わな等へのICT活用について、本年度研究するとの答弁があったが、研究の状況を伺う</p> <p>コ 捕獲後の利活用は、現在、放射能のため不可能でも、近い将来可能になる可能性もあるので、調査研究を進めるべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>サ 捕獲後利用できないとすれば、施設での焼却や現地での埋設を公費支援できないか</p> <p>4 人事評価制度について</p> <p>(1) 平成 26 年 5 月 14 日に公布された改正地方公務員法は、今年の春から新たな人事評価制度を導入することを求めている。実施状況と問題点、今後の課題について伺う</p>
10	10	佐藤弘樹	<p>1 地域まちづくり人材の育成策と協働理解について</p> <p>2 防災士育成と連携状況について</p> <p>3 災害時の避難行動支援における条例制定について</p> <p>4 市営霊園の整備計画と合葬墓の考えについて</p> <p>5 大崎市鹿島台学童農園の整備と利活用策について</p> <p>6 ブックスタート事業導入の進捗について</p> <p>7 音楽が聞こえる都市づくりの推進策について</p>
11	4	山口文博	<p>1 三本木地域の太陽光発電施設建設に係る開発について</p> <p>(1) 三本木桑折地区、伊場野地区の事業内容と、開発によ</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>る事前協議について伺う</p> <p>(2) 山林の造成による雨水排水を放流する新堀川の氾濫や流域下流の鶴田川（遊水地）への影響について、また調整池の貯留量や沈砂池について伺う</p> <p>(3) 山林を造成して太陽光発電施設を建設することは自然破壊のように見えるが、世界農業遺産の景観としてはどのように捉えているか、伺う</p> <p>2 旧鹿島台第二小学校利活用プロジェクトについて</p> <p>(1) 旧鹿島台第二小学校利活用プロジェクトの最終報告を受けての見解を伺う</p> <p>(2) 旧鹿島台第二小学校利活用の整備について、いつごろ実施するのか、伺う</p> <p>3 耕作放棄地や用水路、排水路など農業用地の維持管理について</p> <p>(1) 農村地域の高齢化や担い手不足により、耕作放棄地がふえている。その農地や用水路、排水路などの地域での維持管理が必要であるが、これも高齢化や担い手不足により思うようにならない。そこで、多面的機能支払交付金事業を活用すべきであるが、草刈りなど人手がかかる作業は業者に委託できるように、もっと柔軟な事業にするべきと思うが、見解を伺う</p>
12	2	伊勢健一	<p>1 大崎市図書館のあり方について</p> <p>(1) 大崎市全体の予算の中の図書館関係費用が占める割合</p> <p>(2) 公民館や市民病院との連携</p> <p>(3) レファレンス機能の充実</p> <p>2 農林業系廃棄物試験焼却について</p> <p>(1) 試験焼却の進捗について</p> <p>(2) 地域への配慮について</p> <p>3 道路整備におけるLBTの導入について</p> <p>(1) 市民からの市道補修の要望と改善成果</p> <p>(2) 道路整備におけるLBTの導入について</p> <p>4 地域自治組織戦略体制整備モデル事業について</p> <p>(1) モデル事業3年間の成果と課題</p> <p>(2) 今後の方向性</p>
13	23	後藤錦信	<p>1 総合計画の市民周知について</p> <p>(1) 未来を担う子供たちに向けての発信について</p> <p>2 結婚をみんなで祝う施策について</p> <p>(1) オリジナル婚姻届の作成について</p> <p>(2) 記念植樹について</p> <p>3 有害鳥獣駆除対策について</p> <p>(1) 被害の現状について</p> <p>(2) 被害の防止計画の作成について</p> <p>(3) ハンターの確保対策について</p> <p>(4) 被害防止対策助成制度の拡充について</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
14	13	鎌内つぎ子	<p>1 学校現場における人手不足と多忙化問題について</p> <p>(1) 講師不足について</p> <p>(2) 教員補助の増について</p> <p>(3) 35人学級について</p> <p>2 成人用肺炎球菌ワクチンの定期予防接種について</p> <p>(1) 平成31年度から65歳のみ対象となるが、今後の対策について</p> <p>3 子どものインフルエンザ予防接種への助成について</p> <p>(1) 子育て支援の一環として支援できないか</p> <p>4 高齢者福祉施設の課題について</p> <p>(1) 施設の老朽化対策について</p> <p>(2) 人材確保への支援について</p>
15	12	相澤久義	<p>1 スポーツ振興について</p> <p>(1) 近年、日本スポーツ界では、10代の選手が世界大会で活躍している。彼らの活躍は、低年齢児からスポーツに親しみ、その結果と考える。大崎市内幼稚園でのスポーツ振興策の考え方は</p> <p>(2) スポ少指導者、中学校部活動顧問への心技体の講習会や講演会の開催の考え方とスポ少指導者や部活動外部コーチの処遇について</p> <p>(3) 中学校部活動強化策の考え方</p>
16	16	横山悦子	<p>1 東北新幹線振動・騒音対策について</p> <p>(1) 振動・騒音の再測定について</p> <p>(2) JR東日本に、「スピードアップしていないか」の確認について</p> <p>(3) JR東日本に、「高架橋等の工事をしていないか」の確認について</p> <p>2 認知症対策と包括ケアシステムについて</p> <p>(1) 本市の認知症の実態と対策について</p> <p>(2) 認知症患者を地域で見守ることについて</p> <p>(3) 地域包括支援センターの機能充実について</p> <p>(4) 精神医療機関、病院と本市の協議について</p> <p>3 インフルエンザ予防接種について</p> <p>(1) インフルエンザの本格的な流行シーズンを前に、ワクチン不足で予防接種を中止する医療機関が相次いでいるが、本市の状況について伺う</p> <p>(2) インフルエンザ予防接種の助成拡大の考えについて</p> <p>4 地域密着型介護施設について</p> <p>(1) 入所中に要介護認定を申請し、調査の結果、要介護2と認定になれば退所となるが、特例措置の考えについて伺う</p> <p>(2) 入所者が入院となれば、3カ月部屋をあけて、退院するのを待たなければならないことについて伺う</p> <p>5 古川青塚地区の道路新設について</p> <p>(1) 国道4号中央分離帯の開口部閉鎖はいつごろになるのか、伺う</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
17	19	只野直悦	<p>(2) 計画道路「市道稲葉～小泉線」への接続道路について</p> <p>1 地域防災力の向上について</p> <p>(1) 改訂版ハザードマップ作成の進捗について</p> <p>ア 基準水位設定の想定最大規模の雨量は</p> <p>(2) タイムラインの見直しについて</p> <p>ア 河川の基準水位の設定の見直しについて</p> <p>イ マイタイムラインの啓発と隣接自治体との協定について</p> <p>(3) 大崎市消防団支援事業所の現状と課題について</p> <p>ア 団員を支援するための拡充について</p> <p>2 がん対策について</p> <p>(1) 胃がんゼロを目指す対策について</p> <p>ア ピロリ菌感染を考慮した胃がん検診の検討について</p> <p>イ 市民健診で行った調査研究のピロリ菌検査の結果について</p> <p>ウ 中学1年生を対象にした検査の実施について</p> <p>3 国内都市交流について</p> <p>(1) 平成28年姉妹都市交流サミットにおける大崎市宣言の進捗について</p> <p>(2) 大阪府田尻町との交流の拡大について</p> <p>ア 物産交流の成果と今後の交流の方向性について</p> <p>イ 中学生の相互交流の教育的効果について</p> <p>ウ ささ結を学校給食に提供することについて</p>
18	26	木内知子	<p>1 宮城県の水道民営化計画が及ぼす大崎市への影響について</p> <p>(1) 宮城県は2021年までに「上工下水一体官民連携」と称して、県が水道事業者としての認可を保持しながら、管理運営を民間企業に委ねるコンセッション方式を導入した「みやぎ型管理運営方式」の水道事業を開始する予定である。この県の動きは本市へどのような影響を及ぼすと考えるか。また、本市の水道事業民営化についての考えを伺う</p> <p>2 放課後児童健全育成事業等の充実を図ることについて</p> <p>(1) 放課後児童クラブ、学童保育の現状と待機児童の解消策は</p> <p>(2) 放課後子供教室の現況と施設の充実が図られているか。また、教室の継続は保証されるのか</p> <p>(3) 「放課後子供総合プラン」（平成26年7月、厚生労働省と文部科学省で共同策定）に示されている放課後子供教室と放課後児童クラブの一体型・連携型推進に対する考えはどうか</p>
19	17	関 武徳	<p>1 老朽化する公共施設の今後の活用計画の考えについて</p> <p>(1) 中央公民館・友和館の今後の考え方</p> <p>(2) 文化の拠点、市民会館のあり方</p> <p>(3) ふるさとプラザの施設機能の充実策</p> <p>2 市民生活の安全・安心のまちづくりについて</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
20	24	氏家善男	<ul style="list-style-type: none"> (1) 市街地で続発した連続不審火への対策について (2) 犯罪抑止力向上への対策強化の取り組み考え 3 本市の雇用状況と外国人就労者受け入れについて <ul style="list-style-type: none"> (1) 本市における働き手不足の現状課題をどう捉えているのか (2) 外国人労働者拡大への対応の考え 4 長者原スマートインター効果拡大への取り組みと化女沼エリアの拡充について <ul style="list-style-type: none"> (1) 宮沢高清水線の用地確保の進捗と沿線エリアの土地利用計画の考え (2) 化女沼ピクニックエリアの拡充策と景観整備 (3) 長者原サービスエリアとの相乗効果
21	18	遊佐辰雄	<ul style="list-style-type: none"> 1 伝統産業の継続と振興策について <ul style="list-style-type: none"> (1) 地理的表示（G I）登録された岩出山凍み豆腐であるが、生産者の減少と高齢化により、存続が先細りである。市の積極的な支援策が求められるが、見解を伺う 2 風疹の発症に対する本市の対応について <ul style="list-style-type: none"> (1) 本市の発症状況について (2) ワクチンの接種状況とPR 3 免振装置（ダンパー）の検査不適合問題について <ul style="list-style-type: none"> (1) メーカーからの説明 (2) 市民病院への対策、交換の時期及び経費など (3) 一般住宅（マンション）や災害公営住宅等への使用の有無 4 学校給食の栄養基準について <ul style="list-style-type: none"> (1) 給食費の負担は県内でどの水準にあるか (2) 本市での栄養基準は満たしているのか <ul style="list-style-type: none"> 1 宮城県種子条例の制定の推進について <ul style="list-style-type: none"> (1) 本年4月に種子法が改正され、国内農産物の生産及び供給に支障を来す危険が予測される。宮城県の農業生産の安定的発展を目指す立場から、宮城県種子条例を制定し、ササニシキ、ひとめぼれなど銘柄米の開発などで大きな役割を担ってきた古川農業試験場などの研究機関の存続強化を図るべきであり、県に協力に制定を求めるべきではないか 2 農産物検査法の見直しについて <ul style="list-style-type: none"> (1) 現在の米検査規格では、着色粒の混入限度は、1等米で0.1%、2等米で0.3%とされている。これに対し、異物の混入限度は、1等米で0.2%、2等米で0.4%と、異物よりも着色粒の基準が厳しく設定されている。近年、カメムシ防除の徹底が進んだが、ネオニコチノイド系農薬の有害性が大きな問題となっており、使用禁止と、米の着色粒の基準廃止を求めることを日本弁護士連合会や消費者団体から出されている。米どころ大崎市の農家にとっても、着色粒の基準を見直せば農薬の量を大きく減らすことができる。カメムシ斑

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
22	8	八木吉夫	<p>点米とも言われる着色粒に厳し過ぎる現在の農産物検査法の抜本的見直しを強く国に働きかけるべきではないか</p> <p>3 江合川の水害防止策と河川公園管理について</p> <p>(1) 河川の支障木伐採や土砂撤去等の早期整備について</p> <p>(2) 鳴子ダムของハザードマップについて</p> <p>(3) 上鳴子河川公園の管理, 整備について</p> <p>1 2040年問題について</p> <p>(1) 人口減少と高齢化が進み, 65歳以上が約4,000万人以上とピークに達する。自治体としてどのように捉え, どのような政策を講ずるのか, 所見を伺う</p> <p>2 鳴子温泉観光振興策進捗ぐあいについて</p> <p>(1) 鳴子峡のライトアップを実施して成果を上げたと思うが, 今後, 鳴子温泉地区の観光戦略(オルレも含め)をどのように進めて行くのか, 所見を伺う</p> <p>3 廃熱も含めた再生可能エネルギーの利活用政策について</p> <p>(1) 廃熱も含めた再生可能エネルギー(小水力, バイオマスチップボイラー等)の利活用振興政策について, どのように捉え, どのように進めていこうとしているのか, 所見を伺う</p> <p>4 道路横断時の安全対策について</p> <p>(1) 李埵新田線が開通すると, 信号機の移設により, 江合本町三丁目に住む子供たちや古川工業高校野球部の生徒たちが遠回りを余儀なくされ, 地域コミュニティも分断される。今ある信号機を南側新設道路に設置し, 今までどおり通行できるようにできないか, 伺う</p>
23	27	小沢和悦	<p>1 放射能汚染農林系「廃棄物」の処理について</p> <p>(1) 試験焼却に市民の理解は得られたと思っているのか。不安を持っている方は少ないと思っているのか</p> <p>(2) 住民の意向を尊重せず, 処理方針を拙速に「焼却・すき込み」と庁議決定したことは反省すべきではないのか</p> <p>2 都市計画事業と都市計画税に関する諸問題と市の対応について</p> <p>(1) 昨年12月議会に, 都市計画税条例の一部を改正する条例案を提出するまでの間に, 関係住民への説明努力は十分だったと認識しているのか。</p> <p>鹿島台地域の地域リーダーの一人が市長宛てに「質問状」を提出し, 回答期限を示したのに回答がなかったというのは事実か</p> <p>(2) いわゆる都市計画事業と財源の関係について, 市長はどう認識しているのか</p> <p>(3) 合併を機に都市計画税を廃止する自治体が少なからずあったことについての見解と大崎市の対応について</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
24	5	山口 壽	<p>1 将来の市民のため、新たな大崎市のため、夢のある大崎市にするために（壮大な交通網整備）</p> <p>(1) 仙台圏に速く格安で移動できる線路を新設する考えはないか。隣接する市町村と連携し、地下鉄泉中央駅に連結する計画を考えてはどうか</p> <p>(2) 市長の役職環境を最大限に生かし、大崎市にある全ての国道を環状線で結ぶ計画を早期に考えてはどうか</p>